



ウクライナ危機に関する声明 (2022.2.27)

ロシア軍によるウクライナ侵攻に強く抗議し、ロシア軍のウクライナからの速やかな撤退を求めます。

私たちは 1986 年、旧ソ連で起こったチェルノブイリ原発事故によるウクライナの被災者救援にこの 31 年間関わってきました。世界最初の大規模な原発事故により多くのウクライナの人々が故郷を追われ、健康被害に苦しめられる現実を見てきました。被災地域の住民の方々はもとより、自らの犠牲を顧みずウクライナの為に働いた事故処理作業員とその家族の方々は今も苦しんでいます。ウクライナの人々に再びこうした苦しみを味わって欲しくありません。

この度のロシアによるウクライナでの戦闘行動は、改めてウクライナの人々にただならぬ苦難をもたらし、子ども達の未来にも大きな暗雲をもたらすものです。ウクライナ国内の問題に外国勢力が軍力をもって干渉することは如何なる理由でも許されるものではありません。全ての国家間の問題は対話と外交により解決すべきであり、武力や戦争では解決できません。このことは過去の 2 度にわたる世界大戦とその後の様々な国際紛争を経て人類が学んだ教訓です。広島、長崎の原爆投下から 70 年以上経った今も、私たちは地球から核兵器を無くす事が出来ていません。核抑止力をもって戦争をなくす、という愚かな選択を私たちは断じて許しません。

この度、ロシア軍がチェルノブイリ原発を占拠した事で、今後どのような事態が起こるか国際的な不安が高まっています。私たちはロシア軍が速やかにウクライナから撤退し、いかなる軍事的手段も用いず、ウクライナとロシア双方の対話と外交によって、市民の命を第一とした新たな未来が拓かれることを強く求めます。



<隣接する「25 番学校」を破壊した砲弾による爆風で、破損したホステージ基金事務所内部>

NPO 法人 チェルノブイリ救援・中部

事務所所在地：〒460-0012 名古屋市中区千代田 5 丁目 11-33 ST プラザ鶴舞 本館 5 階 B

銀行名：三菱 UFJ 銀行 高畑支店(店番号 297)

□ 座番号：普通 1682863

□ 座名義：特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部 理事長 池田 光司

郵便振替：00880-7-108610

TEL / Fax：052-228-6813 (月・水・金 10:00 ~ 17:00)

ホームページ：<http://www.chernobyl-chubu-jp.org>

2022年3月7日

ウクライナ救援募金のお願い

NPO 法人 チェルノブイリ救援・中部

ロシアによるウクライナ侵攻は今なお継続中です。私たちは1986年に旧ソ連時代のウクライナで起きたチェルノブイリ原発事故の被災地を過去31年間支援して来ました。ウクライナで最も放射能の被害が大きかったジトーミル州の被災者、事故処理作業員たちは今なお苦しんでいます。そんな中、この度のロシアによる戦争は現地の人々に再び厳しい状況をもたらしています。

戦争が始まった直後、ロシア軍はチェルノブイリ原発を制圧し現在も廃炉作業員たちを人質に原発を侵攻の拠点にしています。更に3月5日、私たちが永年交流してきたジトーミル市第25番学校が爆撃・破壊されました。この学校の子供たちは、福島原発事故後、南相馬市の幼稚園や保育園にクリスマスカードを贈ってくれています。その際の爆風で私たちの活動を支えてきた「チェルノブイリ・ホステージ基金」の事務所も破壊されてしまいました。現地の消防士たちは破壊されたビルの消火や救助活動に必死です。

こうした状況を踏まえ、私たちはウクライナの緊急支援を始めます。集まった支援金は現地カウンターパートと連絡を取り合いながら、消防士たちを中心とした支援ルートを確認し、緊急性・安全性を確認しながら必要な支援に使っていく予定です。事態を見ながらの支援となりますが、一人でも多くの人々の命を支える支援となるよう進めていきます。皆さまにご協力をお願いするとともに、どうか、ウクライナの人々の無事と一日も早い平和の回復を祈ってください。

◎ 想定される支援：現地に残されている人々の生活用品
(医薬品、食品、衛生用品、毛布等)

救助活動に必要な物資、現地での生活資金の援助など
学校や病院の復興、消防士たちの活動に必要な機材など

◎ 連絡先（月・水・金 午前10時～午後3時）

NPO 法人チェルノブイリ救援・中部

〒460-0012

名古屋市中区千代田5丁目11-33 ST PLAZA TSURUMAI 本館5B

電話：052-228-6813

メールアドレス：chqchubu@muc.biglobe.ne.jp

ホームページ：<http://www.chernobyl-chubu-jp.org>

「ウクライナ救援基金」振込口座

銀行名：三菱UFJ銀行

支店名：名古屋営業部（店番150）

口座番号：普通 6949211

口座名義：特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援中部

※ この口座は、ウクライナ侵攻の緊急支援専用の口座です。
通常の支援口座とは異なりますのでご確認をお願いします。

緊迫！取材中にもサイレンが…、ウクライナの現状は？ 現地の女性が語る「日常」と「非日常」

「ウクライナに息の長い支援を」（3月18日18時15分～ SBC ニュースを紹介します。）



<SBC 信越放送さまより引用させていただきました。>

ロシアがウクライナに侵攻してから 4 週間が過ぎました。

長野県内の関係者と交流を続けてきた現地の女性が SBC のインタビューに応じ、「息の長い支援を続けて欲しい」と訴えました。県内でも各地で行われているロシアによるウクライナ侵攻への抗議活動。旧ソ連時代の 1986 年には、ウクライナのチェルノブイリ原発で事故が起き、長野県からも様々な支援が続けられてきました。

南箕輪村で活動が続ける男性のもとには、現地の窮状が毎日のように送られてきます。何度も訪れたことがある学校も被災しました。

原 富男さんは「日本の子ども達が描いた絵や折り紙を学校に渡して、向こうからはクリスマスカードをもらったり…、ちょっと愕然だよな。どうやってこれから支援していったらいいか…」と話します。

情報を送ってきているのは、現地の窓口となっている支援組織（ホステージ基金）のイエブゲーニャ・ドンチェヴァさんです。17日、SBCの取材に、いまの状況を語りました。

「直近の爆撃は、私の家から 200 メートルのところでありました。民家が壊れました。9 日のことです。キッチンの窓から爆発が見えて、私はすぐ伏せて隣の部屋に逃げました。」

ドンチェヴァさんが住んでいるのは、首都・キエフから西におよそ 130 キロにある都市、ジトームル。松本市よりやや多い 26 万人が暮らしています。主な戦闘地域にはなっていませんが、侵攻が始まってからの 20 日間で、地元（ジトームル）では 43 人が死んでしまった。このうち 20 人は民間人で、3 人は子どもでした。必ず生き残らなければなりません。

「私の職場は行政機関の建物の中にあります。（爆撃で）窓枠などが壊されました。産科医院です。侵攻後に 29 人の赤ちゃんが生まれました。戦禍でも人は生き続けています。」

爆撃された商店もありますが、店は開いていて、人びとは、日常の生活を心がけているといいます。一方で、町のわずか 5～60 キロ東には、首都キエフへ向かおうとするロシア軍がいます。

インタビューの途中で…「（ウー！）サイレン？ 待ってください、2 回鳴ったから、大丈夫です。」

（記者）＝「それでも逃げた方が…」「大丈夫です。おそらく戦闘機がいたけど、別の方向に行ったんです。数日で軍事的なことにも慣れてしまいました。」

7 割の子ども達はポーランドや国の西側へと避難。しかし息子夫婦と 3 歳になる孫は、離れ離れになることを避け、市内で暮らしています。いま求めているのは、元通りの平穏な暮らしです。

「（侵攻前の）2 月 23 日に目覚めて、『なんてひどい夢だったんだ』と言いたい。しかしこれは夢ではないんです。それから家族の安全を願っています。孫には幸せな子ども時代を過ごしてほしい。幼稚園に戻り、私のところにも戻って欲しい。」

ドンチェヴァさんは、長野県からも続けられてきた息の長い支援に期待を寄せています。

「日本の皆さんにお願いしたいのは、我々に寄り添っていて欲しいということです。最後まで、チェルノブイリ事故のあと我々を支援してくれた国はたくさんありました。アメリカ・オランダ・ドイツ…とても多くの国です。しかし毎年その数は減り続けました。35 年経ってウクライナは孤立無援になりました。たった一つの国を除いて、それが日本です。だから最後まで我々とともに居続けて欲しいんです。そうすれば何事も乗り越えられると信じています。」

2月24日に始まったロシアによるウクライナ侵攻は、改めて原発の脅威を明らかにした。ロシアは侵攻後、いち早くチェルノブイリ原発を占拠した。その主張は、「ウクライナがここで核兵器の開発をしている」という、根拠のないものだった。実際は、ここを拠点に首都キエフを狙った軍事作戦と、原発の放射能を脅しの道具にしたのだった。原発はかねてから、テロや戦争に際して極めて危険な存在だと言われてきたが、そのリスクは改めて世界的に認識された。

チェルノブイリ原発の外部電源遮断

ロシア軍はチェルノブイリ原発を占拠後、職員211名を人質にし、原発を管理させていたが、過労で倒れるスタッフも出て、3月9日600時間ぶりに半数を交代させた。この間、チェルノブイリ原発の外部電源ケーブルを切断した。チェルノブイリで1986年に爆発したのは4号炉で、1~3号炉は2012年まで稼働していたので、同原発構内には約2万本の使用済み燃料が冷却プールに貯蔵・冷却中である。現在は発電していないので、冷却用ポンプは外部電源に頼っている。ロシア軍は、この外部電源の送電線を切断し電力供給を絶った。稼働停止から時間を経っているので、爆発事故は起こらないかもしれないが、冷却水が蒸発し、燃料棒が露出・損傷すれば周辺地域の放射能汚染は避けられない。緊急用の自家発電装置は48時間しか持たない。2日後にロシア軍は、ベラルーシからの電線をつないで冷却を再開した。これはロシアによる明らかな脅しである。私たちが永年支援してきたウクライナのナロジチ地区は、チェルノブイリ原発に近く、一時どうなる事かと緊張した。

ザポロジエ原発の爆撃

更に戦慄すべき事態が、ウクライナ南東部にあるザポロジエ原発で発生した。ロシア軍は、まだ稼働中のこの原発を爆撃し火災を発生させた。ザポロジエ原発は、稼働中の原子炉が6基あり、ウクライナだけでなくヨーロッパでも最大規模である。幸い爆撃は、作業員の研修施設の破壊・火災ですんだが、もし爆弾が管理棟にでも命中したら、想像できない事態になった筈である。ここの原子炉燃料はチェルノブイリ

4号炉の10倍もあり、もし爆発したらチェルノブイリの比ではない事態が発生しただろう。例えば、放射性セシウムの量で比べれば、チェルノブイリ4号事故では広島原爆の500倍のセシウムが飛び散り、ウクライナ・ベラルーシ・ロシアは勿論、ドイツやイタリア・フィンランドなどヨーロッパ全域を汚染した。もしザポロジエ原発が爆発すれば、広島原爆の5,000倍のセシウムが、ヨーロッパだけでなく地球レベルの汚染をもたらしたかもしれない。この事態は、戦争やテロによる原発の危険性を改めて浮き彫りにした。ロシア軍は、今もザポロジエ原発を占拠しており、今後も脅迫の手段にする可能性がある。

原発のテロ対策は役に立たない

現在、国内の原発のテロ対策に対し、原子力規制委員会の認可が必要だ。が、その内容は外部電源の分散化や可搬型の電源車・ポンプ車の配備などが義務つけられているだけで、爆弾投下やミサイルによる爆撃には全く役に立たない。大量の使用済み燃料プールは原発建屋の最上階にあり、福島原発事故では水素爆発で屋根が吹き飛んだ事実がある。福島の4号炉は停止中だったが、建屋の使用済み燃料プールの水が無くなり、再臨界による爆発の危険が専門家の間では恐怖を呼んだ。

原発は事実上の核兵器に成り得る

今回のロシアによるウクライナ侵攻は、改めて原発の危険性を露わにした。原発と核兵器は双子の兄弟である事を心に脱原発を。

(2022年3月24日 河田)

ロシアのウクライナ侵攻に抗議し、ウクライナと連帯する 集会・デモ

(長野県南箕輪村 原 富男)

2月24日、ロシアが突然ウクライナに軍事侵攻しました。

最初は、ウクライナ東部地域に限定された軍事行動と思われましたが、日を追うにつれ、ウクライナ全土の基地や空港なども攻撃され、今では一般住宅・病院・学校など、まさに無差別攻撃となっています。

またロシアは、チェルノブイリ原発・ザポロジエ原発・核研究所の3カ所を占拠しました。チェルノブイリ原発では、攻撃により冷却に使う電線が破壊され、後に復旧したものの、あわや「放射能漏れ」の事態も予想されました。さらに、ザポロジエ原発や核研究所も攻撃を受けました。核物質が保管されている場所への攻撃など、もっての外です。ザポロジエ原発は、6基のうち2基が稼働中でした。ロシアは、原発に砲弾を撃ち込んだのです。火災だけですんだものの、命中すれば大惨事になるところでした。



攻撃は、私達の支援地域ジトミルにも及び、25番学校も爆撃を受けました。また、チェルノブイリ救援・中部のカウンターパートであるホステージ基金も、攻撃により破壊されました。

25番学校は、ホステージ基金の隣にあり、ウクライナ訪問の度に、日本の小学校からの折り紙や絵などを届け、返礼品の手紙や絵を預かるなど、私にとっては馴染みの学校でした。朝早い時間帯の攻撃だったため、子どもたちには直接の被害はなかったようですが、一瞬にして校舎が廃墟と化し、言葉もありません。また、ホステージ基金の事務所は、いつも相談や打ち合わせをしていた場所です。

私の知っている場所が、瓦礫となってしまったことに驚くと共に、「何とかしなければ」と思い、一文をしたため公表しました。この内容は、メディアが「侵攻された傷跡だけを報道している」ように感じたため、「この戦争は、ウクライナ・ベラルーシ・ロシアの人々の関係を破壊するものだ」と書きました。この3国では、「親戚・友達・親子がそれぞれの国に住んでいる」のが普通にあったのに、戦争で「子が親を撃ち、親戚友人同士が殺し合う」ことになり、互いの関係が壊れることを憂慮したのです。また、私個人で何か出来ないかと考え、布を買い求めてウクライナの旗を作りました。

さらに、無慈悲な攻撃を続けるプーチンに、大勢で抗議しなければならないとも考え、集会とデモを呼びかけることにしました。まず、上伊那からウクライナを訪れた6名と、その家族に集まってもらい、「訪問者の会」として集会・デモを呼びかけることになりました。日曜日に打合会を開き、次の日曜日に集会・デモをするという、7日間という短期間の準備でしたが、共感した友人達が宣伝してくれて当日を迎えました。



3月13日(日)の集会・デモは、伊那市の「いなっせ北広場」で行われ、凡そ100名の皆さんに集まっていただきました。

集会では、訪問者の内4名が、訪問したときの様子を語り、破壊されるウクライナの現状を嘆き、プーチンへの抗議の言葉がありました。また、一刻も早い停戦を願う言葉がありました。

続いて、駒ヶ根市と南箕輪村の参加者の方から、抗議と連帯の発言がありました。会場では、プーチンに対する抗議文が読み上げられ、抗議文は同日ロシア大使館に郵送しました。

集会後、ウクライナ国旗や国旗模様のプラカードなどを手に、市内をデモしました。

この集会・デモを含め、これまで15万6千円の寄付が寄せられています。心から感謝します。

チェルノブイリと福島のこれまでとこれから — 31年の活動を通して見た原発事故 —

今中 哲二 氏 (京都大学複合原子力研)

3月13日(日)に、今中哲二さんの講演会を名古屋YWCA(ビッグスペース)で開催しました。チェル救としては初めての、会場とオンライン併用のハイブリッド形式での講演会でしたが、名古屋NGOセンターのサポート(技術的なサポートはフジオカヒロタカデザイン事務所)で実現しました。

○ 第一部『戦争と原発 ウクライナで戦争が始まった チェルノブイリ36年、福島11年』

今中さんのお話は、2/24にプーチン・ロシア軍により爆撃が始められたウクライナ侵略に伴い内容が変更され、上記のタイトルになりました。

まずウクライナとロシアの複雑な歴史的・民族的な関係の説明から。今まさにウクライナで、ロシア軍による激しい止めることのできない侵略戦争の、その背景にある歴史的な侵略の繰り返し。10世紀ごろのキエフ・ルーシ建国の頃から、17、8世紀頃のポーランド領、リトアニア領時代、「タタールのくびき」、ロシア帝国の侵攻、ロシア革命からソ連邦、ソ連邦崩壊後のウクライナ独立。ロシアのNATOの東方拡大の脅威からウクライナ侵略に至る現在まで、ウクライナの東西南北からの民族のせめぎ合いに翻弄された歴史が良くわかりました。

その後は、1986年4月26日のチェルノブイリ原発事故について、原発の特徴や事故・廃炉への実相を、30年以上に亘るウクライナ、ベラルーシでの研究から解説していただきました。さらに、(チェルノブイリから36年、福島から11年)ということで、それぞれの事故原因が「核の暴走事故」と炉心冷却に失敗した「メルトダウン事故」であったことや、被害の比較を整理して示されました。

そして最後に、「戦争反対! 侵略反対! ロシア軍は直ちにウクライナから撤退せよ!」と訴えられました。

○ 講演後のアンケートで寄せられた感想

- ・ロシアのウクライナ侵攻から、その原因となる両国や東ヨーロッパの歴史、成り立ちを教えてください理解は深まりました
- ・福島とチェルノブイリ原発の比較、ウクライナの昔と今、多角的に分かりやすく教えてください、非常にタイムリーで良かったです。
- ・チェルノブイリと福島の事故状況の違いも、改めて確認することが出来ました。忘れてはならないこと、考え続けなければならないこととして、チェルノブイリも福島も、繰り返し学習を重ねていければと思います。
- ・子ども達の甲状腺がんのデータは、具体的で見逃せないものだと思います。

○ 第2部「福島第一原発事故被災地の放射能測定10年間のまとめ…放射能と向かい合った10年、そして未来へ」(チェル救 理事長 池田光司)は、次ページへ。

○ チェル救の活動へのご意見・感想

- ・31年間活動を継続して来られた貴会に、深く敬意と感謝を捧げる者です。
とてつもなく長期にわたる廃炉への道のりを思う時、貴会の大切さとともに、継続の永遠性を祈念いたします。オンラインで垣間見えた会場では、私くらいの年長者が多いと感じましたが、原爆被害と戦争を語り継ぐ当事者世代が去りゆく昨今と同じように、福島原発事故時代に生きた世代が去った後、どのように語り継ぎ活動を繋いで行くのかが、課題になると感じました。

○ ウクライナへの侵略戦争について

- ・皆さんの無事を祈ります。泥沼化しないこと、早く戦争が終わりますように。

* 講演会の動画 (限定公開) チェル救のYouTubeチャンネルにアップしています。

<https://youtu.be/4ZkMCbbx64E> QRコード→



「放射能と向き合った10年、そして未来へ」講演

(池田 光司)

先回の187号ポレーシェで、放射能測定10年史の完成が間近なことをお伝えしましたが、講演会の前日、3月12日(金)に冊子が刷り上がってきました。ギリギリ間に合いました。冊子は、A4判で本編が146頁、巻末に10年20期分の放射線量率マップが載っています。「放射能汚染がどう広がったか」「放射能汚染がどのように下がってきたか」「どのような放射能汚染状況で避難指示が解除されたか」について、マップとデータ分析を基にまとめてあります。また、測定に参加された方々のポレーシェの記事を集めることで、「測定を通して何を感じたか」をあらためて確認することができます。読み応えはありますが、ぜひ多くの方々に読んでいただいて、原発事故による放射能汚染を記憶に留めていただけたらと思います。



冊子を希望される方は、チェルノブイリ事務所にまでご連絡ください。(申し訳ありませんが、送料はご負担ください。)

さて、3月13日の講演は、この冊子の内容のポイントを約30分で紹介しました。当初は、10年間の測定データの分析結果を淡々と報告する予定でした。しかし、2月24日にロシアによるウクライナへの軍事侵襲が始まりました。私もスタディーツアーで訪れたことのあるジトームル市の25番学校の校舎が爆撃を受け、校舎の半分以上が破壊されてしまいました。その向かいにあった「チェルノブイリ・ホステージ基金」の事務所も、その爆風で壊されました。3月4日のことです。ウクライナの人々への思いを少しでも報告に加えたいと思い、構成を一部変えて報告しました。報告の内容は、以下の通りです。

報告は、2008年私が初めてチェルノブイリ原発を訪れた時に撮った写真から始めました。原発事故から22年経っても、逃げた時のまま放置されていたプリピャチのアパートに、衝撃を受けるとともに、原発事故の恐ろしさを感じました。そして、東日本大震災で起きた福島第一原発事故。複数の原子炉が同時に制御不能となったことに、「底知れぬ不安」を覚えました。この「底知れぬ不安」は、忘れてはいけない、伝えなくてはならない不安だと思います。そして、原発事故から一ヶ月後に南相馬市を訪れ、その二か月後に放射能測定を始めることになったいきさつをお話しました。その後、測定を通して分かった放射能汚染の実態を、マップとデータを分析したグラフなどで説明しました。測定を通して分かったことは、「放射能汚染の広がり、事故発生時の天候、風や雨に左右される」「放射能汚染は、事故で放出された放射性物質の物理的半減期に則して減少する」「放射能汚染の分布は、事故当時の形が残っていく」ということです。そして、未来に伝えたい教訓として次のことを述べました。

「原発で一旦事故が起きると、それによってどんな放射能汚染が起こるかは予測できません。どれだけの人々がどこに避難すればいいかは、分からないということです。そして、避難した後、いつ帰れるかも分からないということです。そのような放射能汚染を引き起こす放射性物質は、原発を動かして核分裂反応が起こることで生じます。原発を動かしてはいけません。」そして最後に、ホステージ基金のドンチェヴァさん、25番学校の子供たち、ジトームルの消防士たちの写真をお見せして、ウクライナの人々の無事と一日も早い攻撃の終了を訴えました。



2022年2月24日、ウクライナへのロシアの軍事侵攻が開始された。この暴挙の中で、ホステージ基金のドンチェヴァさんから「全世界と連絡を取り、ウクライナの事について語るのは、今重要なことです。戦争がいかなるもので、ウクライナがどんな恐ろしい状態に陥っているか、全ての人に知ってもらいましょう。」とメッセージが届いた。以下、ロシアの軍事侵攻以後のウクライナ情報である（翻訳は竹内高明氏による）。



〈ドンチェヴァさん(左)と
チュマクさん(2016.12)〉

- ◆ 2月24日 日本時間 08:06 (河田さん)
ニュースがありました。ロシアがウクライナとの戦争を始めたとのこと。とても心配です。ウクライナの友人が無事でいることを祈っています。
- ◆ 2月24日 ウクライナ時間 16:20頃 (ドンチェヴァさん)
まあ、なんと言えはいいのか…朝5時に、軍の飛行場から大きな爆発音が聞こえました。私のうちから20分のところです。その後、射撃や爆撃はありませんが、ガソリンスタンドには行列ができ、隣人たちは皆店に食品を買い出しに行っています。通信の問題が起きるのではと恐れています…職場に行きたいです。また書きます。
- ◆ 2月25日 日本時間 08:04 (河田さん)
緊急のニュースです。今朝5時37分、モスクワ発のニュース。ロシア軍がチェルノブイリ原発を占拠したそうです。その意図は分かりませんが。
- ◆ 2月25日 日本時間 15:46 (竹内さん)
ベラルーシ国境から、チェルノブイリ原発周辺の立入制限区域を通過して、キエフに向かっているロシア軍の戦車隊は、国境とキエフのおよそ中間地点にあたるイヴァンキウで戦闘が発生。ウクライナ軍が橋を破壊したため行軍を停止中です。
- ◆ 2月25日 ウクライナ時間 15:46 (ドンチェヴァさん)
朝は静かに迎えました。戦争だとは信じられない程です…戦時状態宣言と戒厳令発令。昨日、既に店のパンはなくなっていました…しかし、全体として状況はコントロールされています。
- ◆ 2月27日 ウクライナ時間 09:12 (ドンチェヴァさん)
皆さんのサポートすべてに対して感謝します。こんな大変な時にも私たちのことを思い、心配してくださっていることに対して(注:チェルノブイリからのメッセージについて。…平和を愛する者に勝利があることを信じて…)。ジトーミルの夜は平穏に過ぎました。ここはキエフではなく、そのことが救いとなっています。朝、飛行機が飛来し始め、対空砲が迎え撃ち始めましたが、今は静かです。子どものいる隣人たちは、地下室に避難しました。私たちはくじけず、祈っています。日本のメディアでも書かれている通り、キエフ市内各所でも銃撃音が聞こえていると、ウクライナのメディアで報道されています。
- ◆ 2月27日 ウクライナ時間 16:02 (ドンチェヴァさん)
励ましの言葉ありがとう。私たちは持ちこたえています。ジトーミルではやはりキエフのようではありません。キエフで起こっていることは、恐怖と涙なしには見ることはできません…。ジトーミルの状況は平穏で、明け方に飛行機が飛んでくるだけです。おそらくすべてキエフに向かって飛んでいくのでしょうか。ジトーミルでは街から出る道がとざされ、検問所が作られました。発電所のそばにも、昨日になって検問所ができました。私の住む集合住宅では、男性たちが不寝番を組織しています。皆破壊工作者を恐れているのです。ここでさらに重要なことは、情報の洪水のせいで気が変になってしまわないことです。とにかく、すべてを冷静に受け止めるように努力しています。

私たちの友人の皆さんに、ウクライナは強い、不屈の国だと伝えてください。私たちは闘います！

◆ 2月28日 ウクライナ時間 17:19 (ドンチェヴァさん)

連絡ありがとう...今、とても大事なことです。私たちが災いの中で孤立しているのではないということをお教えしてくれます。そしてその災いは、本当に恐ろしいものです。私は、たくさんのメールとウクライナ・ジトーミルの状況についての質問を、受け取っています。なんとか私たちの日本の友人たちとパートナーたちを安心させたいのですが、私自身時々我を忘れてしまいます…。すみません、わかってください…。さて、本題です。

- 私は、事務所のある州行政庁の建物に入ろうとしました。すべての電源を切り、窓のそばのものを片付けるために入れてくれました。州行政庁と市執行委員会は、土嚢とコンクリートのプレートで囲まれ、テロに対する警備隊が守っています。おそらく、近い将来にわたっては、これが最後の事務所訪問でしょう…。民間人は家にとどまり、不必要な外出はしないよう要請されているのですから、なおさらです。また、戒厳令が敷かれています。いずれにせよ私は夜間どこにも行きません。集合住宅には地下室があり、空襲警報が発令される時には皆そこに逃げ込みます。私の携帯にはZoomがダウンロードされており、さらに自宅のノートパソコンにもダウンロードできます。全世界と連絡を取り、ウクライナのことについて語るのは、今重要なことです。戦争がいかなるもので、ウクライナがどんな恐ろしい状態に陥っているか、すべての人に知ってもらいましょう。
- 皆さんが提案される支援のことですが、私は何の保証もできません。戦時状態のため、ホステージ基金のできることは限られています。私はお金を受け取ることも、両替することも、物品の買い付けや配布をすることもできません。今のところ、私の考える私たちの役割は、常時国際社会に、ウクライナとジトーミルについての情報を提供し、私たちの悲劇に関心を持ってもらうことです。竹内に、恐るべき出来事、死と死者と破壊については書かないことにします。信じてください、私は精神的に非常につらいです…。ここ数日の間に、私たちは皆人生を改めて生き、すべてを改めて見直しました…。そして悲しいかな、それが私たちの新しい現実になったのです。
- ですから、もし物質的な支援をしたいと思われれば、ウクライナの公的機関と連絡を取らなければなりません(在日ウクライナ大使館とか)。今、ウクライナ軍への支援金を募る複数の口座も開かれています。これは国のレベルで行われるものです。こう答えることで、私は私たちの事故処理業者たちへの支援を断ることになるということは、理解しています。年老いて、病気を持ち、力もない人たちへの…。でも私は、すべてが平穏になるが早いのか、私たちは彼らをサポートできると信じています。

(注) その後、ドイツのNGOの協力により、ウクライナ現地へ支援物資を届けることができるとの情報を得て、進捗している)

◆ 2月28日 ウクライナ時間 17:49 (ドンチェヴァさん)

イスカンデル(ロシアの短距離弾道ミサイル。 <https://ja.wikipedia.org/wiki/9K720>)で、私たちは皆非常に驚きました。ジトーミルから10kmのところにある、キエフへの幹線道路に近い飛行場が爆撃されたのです。まだ開設されたばかりのもので、離陸用滑走路に問題が生じましたが、建物は無事でした。何と言えはいいのか、私の住む70世帯の集合住宅は揺れ、鈍い爆発音が響きました...恐ろしかったです。

今日の昼間は静かで、空襲警報は一つもありませんでした。人々は集まり、テロ対策の自衛のため、非常に多くの作業をしています。共通のチャットを設け、皆最新のニュースを共有しています。私は毎回、もうニュースは見まいと誓うのですが、その都度自分の言葉を裏切り、その後で泣いています...今、ますますはっきりと、完全に別の生活が始まり、何も元には戻せないのだ

ということを理解しています。最も恐ろしいことは、私たちがこの困難な道の出発点にいるに過ぎないということです…。

◆ 3月2日 ウクライナ時間 10:23 (ドンチェヴァさん)

この夜は悲劇的なものでした。ミサイルの攻撃があり(ボフォーニヤ地区)、それはジトーミル州の誇りである「第95旅団」の駐屯地があるところです。しかし、目標を誤ったようで、住宅地に落ち、10軒の家を破壊し、死者が出ました(4名、うち1名は子どもだそうです)。すぐそばには、市立第2成人病院があり、同院の窓とガラスが吹き飛びました…。さらに隣には、産院(周産期センター。州外まで評判が及んでおり、キエフの人もここに出産のためやってきます)があります…。最も恐ろしいのは、人々はすでに空襲警報のサイレンに従わなかったことです。慣れてしまったのか、もうどうでもよくなったのか…。そこへこの爆撃です…。昼間には、全く平和なシンフルィ村(ジトーミル市から15~20km)にミサイルが襲来しました。直径10mの爆発跡が畑に…。これが昨夜の不安なニュースでした。朝は静かで…人々は食品を求めて店に行きました。皆、他の町[複数]で食品が不足しているというニュースを見たのです…。正直なところ、私はもうネットを見る勇気がありません…。

◆ 3月2日 ウクライナ時間 17:09 (ドンチェヴァさん)

ロシアがコロステン市の検問所を攻撃。コロステン市の大きな検問所(5方向への分岐地点)に対し空襲があり、2名が死亡、5名が負傷した。検問所には、軍人・警官・テロ防衛隊員が詰っていた。軍人1名、及び、通過中の自家用車に乗っていた民間人の女性1名が死亡した。その後の追加情報として、死者数が4名に増えたというコロステン市議会の発表。

◆ 3月4日 ウクライナ時間 08:56 (ドンチェヴァさん)

すぐに言いたいのは、状況はもっとはっきりしてきて、(ザポロジエ原発に対する)爆撃は管理棟(竹内の見た報道によれば、教習・訓練棟)が対象で、原子炉は損害を受けませんでした。午前6:00には火災は消し止められ、怪我人が運び出されました。今戦闘は中断され、住民の避難計画が立てられています。いつものことながら、消防士たちの仕事には感嘆せざるを得ません。私たちの英雄です! また、皆さんにお伝えしたいのは、医師の鑑であるハルィナ先生(消防士たちの医療センター長)のことで、彼女はすぐに被曝の危険性について、そして甲状腺を守るための手順について連絡しました。このような人たちがいることを誇りに思います!

◆ 3月4日 ウクライナ時間 09:56 (ドンチェヴァさん)

第25番学校が爆撃され、建物の半分が破壊されました…。いつも日本の派遣団を受け入れていた学校です。私の事務所の窓から見えます。

◆ 3月5日 日本時間 19:28 (竹内さん)

つい先ほど友人たちが電話してくれたのですが、ホ基金の事務所は消滅しているそうです—窓は吹き飛ばされ、内部はすべて破壊されているとのこと。

◆ 3月5日 ウクライナ時間 15:38 (ドンチェヴァさん)

この時には、緊急支援の仕方についてコメント。「送金は待っていただき、「救援・中部」の口座に入れておいてください。お金が必要になるのは後になってからです。人々はまだ食品と薬品の蓄えがあるからです。年金も支払われています…。その後どうなるか、誰にもわかりません。人道支援については、人道支援(ハンブルグからの物資)について。残念ながら、ジトーミルで何かを買い付けることはもう不可能です。私は、いろいろな人や事故処理作業員たちと、長い間相談しました。そして合意したのは、物資は消防士たちが受け取るべきだということです。私は非常事態局の幹部たちと話し、彼らは物資を国境で受け取って、ジトーミルまで運べると保証し



<破壊された「ジトーミル第25番学校」(2022.3/4)>

ました。もちろん、医薬品と最初の手当てのための物品は必要です。また、慢性疾患を持った患者のための医薬品も。

◆ 3月5日 ウクライナ時間 20:38 (ドンチェヴァさん)

(竹内が、日本政府がウクライナ人に難民認定をすると発表したことについて書いたのに対し) 私も、ウクライナ人のための難民認定について読みました...私が車を持っていないことは、竹内も知っていると思いますが、私の知人たちは2月25日・26日に避難してしまい、バスも運行を止めており、皆怖がっています(バプテストもカトリックも、バスで人々を避難させました)。とにかく、私たちは身動きが取れなくなってしまいました...。でも、私は自分の身が心配なのではありません...。ジトーミルに孫が残っており、孫は4月で3歳になるのです...。[息子フィリップの一家は]地下室に隠れており、孫は外の風景を見られません...。避難してポーランドに子どもを連れて行ってほしいという、数日前の私の懇願を、息子の妻は聞き入れませんでした。彼女をも、フィリップをも説き伏せることはできませんでした...。そして今、最後のチャンスは失われてしまったのです。

◆ 3月6日 ウクライナ時間 05:00 (ドンチェヴァさん)

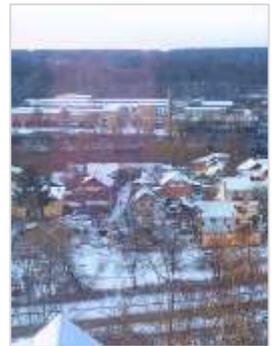
すべて、私が思ったほどひどくはありませんでした...。今日(5日)、州行政庁の建物に入ることができました...。すべてを片付け、事態が好転するまで事務所を封鎖しました。私にはっきりとわかっているのは、そのような時が来て、私たちの基金がさらに活動を続けるだろう、ということ! 窓はベニヤ板で塞がれました。貴重品は自宅に持ち帰りました...

◆ 3月7日 ウクライナ時間 09:37 (ドンチェヴァさん)

3月6日、ウクライナ時間 21:00 頃、ジトーミル州のコロステン・オヴルチ・マルィン各市で空襲あり。

◆ 3月10日 ウクライナ時間 08:25 (ドンチェヴァさん)

今ではもう住宅地に爆撃が及び、夜、私の地区でも爆弾が落とされて、私たちの5階建ての建物の向かいにある一戸建て住宅が直撃されました...。木の窓枠の窓は皆吹き飛びました...。うちの窓枠はプラスチックですが、何ヶ所かで窓の敷居がずれました...。悲しみと恐怖。警報は遅かったのです...。床を這って廊下に出、そこに座っていました...



〈爆撃を受けた近郊の住宅〉

◆ 3月11日 ウクライナ時間 12:17 (ドンチェヴァさん)

こちらの状況については、竹内にメッセージで書いた通りです。励ましと希望の言葉をありがとうございます——この恐怖と涙の世界で、私たちが孤立していないのだと感じられます! 消防士たちは数日前、ポーランドの消防士たちから新しい救急車を提供されましたが、でも医療機器が装備されていません。

非常に必要なものは、1. 除細動器 2. 心電計 3. 酸素濃縮器 これらはすべて救急車の車内で使う、つまりポータブルなものです。今、消防士たちは巨大な作業を遂行しています。爆発やミサイル攻撃があるごとに、被害者の捜索・消火活動・瓦礫の片付けを行うのです。必要な医薬品のリストを添付します。すべて救急用のものです。類似の薬品で代用してもらってもいいです...。州立孤児院について。32人の子ども達が避難しましたが、寝たきりの重度の障碍児たち30人が残っています。食品はありますが、以下のものをお願いされています。脂肪分2.5%の粉ミルク、低アレルギー性発酵乳粉ミルク、あるいはコンデンスミルク(粉ミルクを溶かすことができない場合に備えて)(いずれも賞味期限の長いもの)。ほかに洗濯用洗剤やパンパース(サイズ2~5)。障碍者のための医薬品について。避難していなかった事故処理作業者の医師たちと連絡がとれ、彼らは私にリストを口述しました。一般的な医薬品のグループ名を以下に示し、ウクライナでの製品名を括弧内に書きます。(以下、必要な薬品名列挙)

すべての支援物資は問題なく受け取れます。特別な法律が採択され、今国境からすべての物品は受取人宛に直接届きます。ホ基金の他の運営委員のうち、避難した人もあり、健康の問題で動け

ない人もいます…。それが消防士たちだけに頼っている理由です。彼らは常時準備態勢にあり、どんな問題についても支援すると約束してくれています。コヴァルチュクは地域防衛隊とコンタクトがあり、やはりサポートすると言ってくれています。

◆ 3月12日 ウクライナ時間 07:16 (ドンチェヴァさん)

支援協力先となるドイツの市民団体情報。チェル救に、ドイツの人たちとメールで連絡を取り、話を詰めるよう連絡あり。その後、ドイツの NGO 代表と連絡が取れ、支援に関わるやりとりをしている。消防士たちと医療関係者たちから届いた医薬品のリストと、州立孤児院及び事故処理作業員たちからの依頼を送りました。

◆ 3月12日 ドイツの団体の代表、ジョセフ・ツィーグラー博士と河田さん、支援の件について、やりとり。

◆ 3月12日 ウクライナ時間 20:16 (ドンチェヴァさん)

ドイツの団体に必要な消防士、医療関係者たちから届いた医薬品リストと、州立孤児院及び事故処理作業員たちからの依頼を送りました。

◆ 3月14日 ウクライナ時間 19:35 (ドンチェヴァさん)

情報ありがとうございます。そんなに多くのお金を集めたとは、なんとすばらしいことでしょう…。このことは改めて、「不幸の中で真の友人がわかる」という言葉を裏付けています…。すべてに対して深く感謝します。そのことは、こちらの事故処理作業員たちが皆、そして皆さんの古い友人知人たちが口を揃えて言っていることです…。こちらは静かになり、空襲警報さえ日中2度鳴っただけです。空襲は、すべてウクライナの西部に移動しました…。皆、ロシア軍に占領されたマリウポリのニュースを追っていて、次はキエフの順番だということを理解しています…。

◆ 3月15日 ウクライナ時間 06:39 (ドンチェヴァさん)

こちらはやっと暖かくなり、もう数日静かです。夜間外出禁止の時間も短縮されたくらいです。

◆ 3月17日 ウクライナ時間 06:36 (ドンチェヴァさん)

昨日、私たちは、消防士たち・事故処理作業員たち・ナロジチ病院から受け取ったリストを整理し、支援先への振り分けを行いました。

◆ 3月17日 ウクライナ時間 18:55 (ドンチェヴァさん)

ドイツの団体代表 (ツィーグラー氏) から、今日支援金を受け取ったと連絡がありました。

◆ 3月18日 ウクライナ時間 18:06 (ドンチェヴァさん)

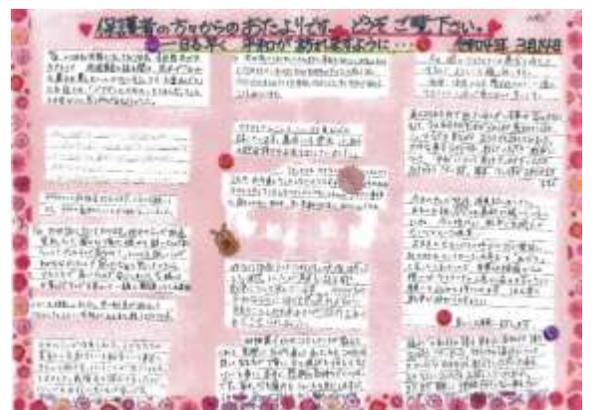
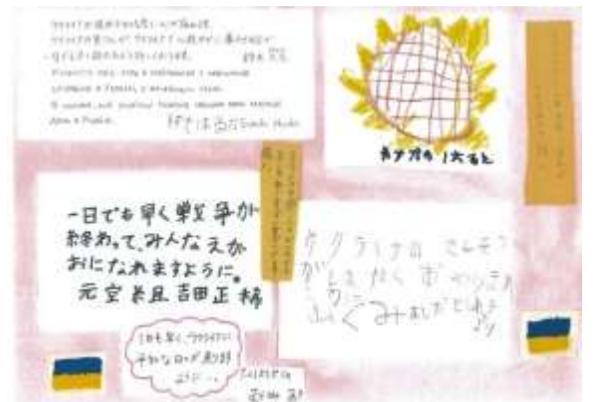
ドイツより、「最初の支援物資を積んだ車の準備ができた」との報告がありました。明日、重量と容量について私に連絡があります。消防士たちが積み替えの車を準備できるように。今、積み替えを行う国境の地点を確認しています。皆さんに本当に感謝します。私たちが一緒になれば、大きな力です！

◆ 3月18日 ウクライナ時間 19:34 (ドンチェヴァさん)

私たちのウクライナに対し、このように困難な時にあたってのサポートをいただき、本当にありがとうございます。私たちは、とてもうまく作業をオーガナイズすることができました。それはウクライナの人々に多くの利益をもたらすでしょう。力を合わせて初めて、私たちはすべての逆境と困難を乗り越えることができるのです。日本の他の団体も、皆さんの例に倣いつつあります。私は今、私たちの新しい方法に則って、ウクライナへの支援の形を確信を持って提案しています。今回もまた、「チェルノブイリ救援・中部」は先頭を切ったのです！私は、私たちがこの長い年月の間に、同じ方向にむかって同じ考えを持って働くすべてを学んだことを、とても嬉しく思います。

【翻訳者・竹内高明氏のパートナー・オリガさんは、ウクライナ出身で、お母様はヴィンヌイツヤ州在住(ジトミルから南部へ128キロ程)。こちらも、軍施設やTV塔にミサイル攻撃を受けたとの事。お二人とも、心休まる時のないなか、竹内さんには昼夜わかつたず、ウクライナとのやり取りを翻訳していただき、情報提供をお願いしています。】

クリスマスカードで交流をしている 南相馬「青葉幼稚園」からのメッセージ



ウクライナのみなさまへ

(上田 千津子)

友人のみなさま、ウクライナへのロシアによる侵攻に対して厳しい状況におかれ、さぞ心細く、不安と恐怖におそわれ、そしてお疲れのこととお見舞い申し上げます。戦火に見舞われ亡くなった方や負傷された方々、またそのご家族のみなさまにも、お悔みとお見舞いを申し上げます。このような理不尽が許されるわけがありません。強い憤りを感じます。私たちは遠い日本にいますが、心はいつもあなたたちとともにあります。私たちも何かできることはないかと、戦争反対の集会やデモを行なって他の人々に訴えており、人道的な支援のための募金や、実行するための具体的な方法を考え動き始めています。連日テレビ各局も、情報番組やニュースなどでウクライナの現状を流し続けています。また、日本各地でも物品販売を行い、売り上げの一部をウクライナに寄付する人々もいます。日本国内では物価が上がったりしていますが、あなた方と苦しみを分かち合う覚悟です。どうか心を強く持って、お辛いでしょようが乗り越えてください。一時も早く戦闘が終わり、復興を遂げ、また平和な日々が早く戻ってきますように祈っております。愛のうちに。

支援を続け、祈り続けたい！

(小野寺 瓊子)

5年前、私が訪れたウクライナは、美しい平和な国に見えた（すでにクリミアでは戦争をしていたのだが）。あの時、ジトーミルが砲撃を受け、キエフの地下鉄が避難する人たちのシェルターになり、チェルノブイリではロシアの戦車が走り回るなど、誰が想像しただろうか。あの時民族衣装を着て踊ってくれた子ども達が爆音に怯え、明るい笑顔の看護



<事故処理作業者に献花
(2016年12月)>

師たちが負傷した人たちの手当てをし、チェルノブイリを守り続けてきた消防士たちが、破壊された建物で救助活動をしている。そう思うと、ニュースを見るたび胸が締め付けられる。プーチンによる戦争が始まって1か月、世界のだれもこの戦争を止められず、ウクライナの犠牲者は増え続け、国外への避難民も三百万人を超えた。ウクライナに留まった人達は、徹底的に戦う道を選んでいる。戦争が長引けば、一体どれだけの人の命が奪われるのか。犠牲はウクライナだけではない。新聞にロシアの女性が「私たちは、プーチンと西側と自分自身の良心に叩かれている。プーチンはロシアをも殺した。精神的にも、経済の上でも。」と寄せていた。私は、ロシアの市民が兵士が、今起きている戦争の本当の姿を知り、武器を置いてプーチンの支配を終わらせるために行動を起こし戦争を止めてくれる、そんな奇跡が起ってほしい。そしてそれまで皆に生き延びてほしい、と心から願っている。そのために私達は、世界の平和を求める人と共にこの戦争に抗議し、ウクライナとロシアが戦争前の平穏な日々を取り戻せるよう、支援を続け祈り続けたい。チェルノブイリの時のような、息の長いずっと続く支援をしていこうと思う。

ウクライナの春

(橋本 京子)

私が初めてウクライナを訪れたのは、チェルノブイリ原発事故から11年目の5月でした。北国の春は花々が一斉に咲き誇ります。キエフの空港では、キリチャンスキーさんがスズランの花束で出迎えてくださいました。ジトーミル州ナロジチヘ向かう街道は、白いマロニエの花の並木道でした。ナロジチの出生率は、ウクライナで最も高いそうです。子どものいる家庭に移住の優先権があるから。ベビーカーを押した2人の若い母親が、私たちの向けたカメラに微笑みを返してくれました。ナロジチ総合病院では、昨日もひとり、新しい命が誕生したそうです。病院の中を見学してる間、少し離れてついてまわっていた院長の孫娘が、庭に咲いていたと言って恥ずかしそうに、忘れな草の花を手渡してくれました。ナロジチも町中に、マロニエ・ライラック・林檎の花が咲いていました。プーチンによるプーチンの為のプーチンの戦争と、テレビ解説である大学教授が言っています。手負い猪が、核兵器に手をつけないことをひたすら願います。ウクライナに花盛りの春が戻ってきますように。

電気・水・食料はあります。足りないものは「平和」です！

(竹内 高明)

ロシアによるウクライナへの全面侵襲開始から、これを書いている時点ですでにひと月が経ち、ロシア軍に爆撃・包囲・占領されたウクライナの諸都市の惨状は、日本での多くの報道で目にしておられることと思います。私の知人友人たちの動向は、住んでいたキエフに留まり高齢者や障害者に食品などを届けるヴォランティアをしている人、ウクライナ西部に避難した人、ドイツその他の国に避難した人などさまざまです。あるご夫婦が、西部に避難する途上で交通事故に遭い、夫は死亡、妻は怪我を負うという事例もありました。この戦禍の中、彼らから聞いた言葉を書き留めておきたいと思います。

「戦争は今始まったのではなく、8年前から始まっていたのです」「今、巻き添えになるのを恐れているヨーロッパ諸国に代わって、ウクライナが最前線で戦っています」「今日の日付がいつなのか、もうわからなくなってきた」「戦争が続き、夜間の空襲警報で睡眠不足の中、多くの方は精神的に疲れてきています。でも私たちが望むのは譲歩の上での停戦ではなく、戦争の完全な終結です」「(SNSで拡散されているウクライナの98歳の女性の言葉)『私は1930年代の飢饉も、ヒトラーの侵略も経験して生き延びてきたんだから、プーチンよりも長生きしてやる!』」「国連など、今の世界の安全保障体制が機能していないことが明らかになった。この戦争の後、新たな安全保障の枠組が造られなければならない」「この戦争が過去のものとなった時、ぜひウクライナを訪れていただきたい。ウクライナは、新しい基準のインフラを備えた新しい国として復興しなければならない。それに力を貸していただければ」「キエフで今、不足していて非常に困るというものはない。電気・水・食料はあります。足りないものは『平和』です。」

<南相馬便り>

(原 富男)

この間の「農地再生協議会」の報告をします。

再生協議会にとってビッグニュース、大口の「油菜ちゃん」の注文がありました。一つは、これまでもお世話になっているラッシュジャパン様（化粧品・石鹸などのメーカー）から、新商品用に1トンの注文をいただきました。また、福島県観光物産館様より大口注文（油菜ちゃんセット「270g×3本入り」105セット＝315本）がありました。

ラッシュジャパン用の納期が3月末のところに、福島県観光物産館の注文が入ったため、搾油に大わらわでしたが、福島県観光物産館分は2月27日に納品できました。

また、ラッシュジャパン分の1トンについても、搾油担当の「アグリあぶくま社」総掛かりによる作業の結果、3月25日に納品が完了しました。二つの注文は、農地再生協にとって大切な収入源であり、ありがたい注文でした。搾油に当たられた皆さんはじめスタッフの方々に、感謝します。

3月18日に、定例会が行われました。3月末に契約満了（退去期限）を迎える、信田沢搾油所の件が、主だった議題でした。先述の注文の関係で、移転準備や移転工事が出来なかったこともあり、貸主である南相馬市に、期限の延長を申し入れることになりました。

期限寸前という事情や、大きな地震があったこともあり、慌ただしい時期になりましたが、申し入れを行い、3月23日に1ヶ月間の延長を認めていただきました。

1ヶ月間の猶予をいただいたものの、1ヶ月後には移転しなければならず、機材の借り置き場が必要になります。そこで、コンテナなどを借りることとし、物件探しに入ることになりました。また、信田沢搾油所に保管している菜種の保管場所も、探すこととなりました。

事務局便り

今号の「ウクライナ情報 (p8~p12)」は、ロシアの軍事侵攻という突然の暴挙により、「戦時下」で生きることを余儀なくされたドンチェヴァさんからのメッセージである。不安と恐怖、憤りの中で混乱し、胸張り裂けそうな思いの中、やがて気持ちを立て直し、また苦しみ、また立て直し、私たちに送ってくれたメッセージである。時々刻々届くそのメッセージは、一言も聞きのがすことのできないものである。今まで届いたすべてのメッセージを紹介することはできなかったが、ページ数を増やしてできる限り多くを掲載した。是非、ご一読いただきたい。(山盛)

ウクライナ救援募金の反響と、更なる募金のお願い!

ウクライナ救援基金には、3月24日の午前10時の時点で123件387万円を超えるご寄付が集まっています! また声明への賛同は65名・団体を超えました(3/16時点)。ご寄付・ご賛同くださった皆様に、心より感謝申し上げます。一日も早くウクライナの市民の方々が安心して生活できる日を取り戻せるよう祈りながら、心を寄せ続けたいと思います。

さらなる支援と連帯の輪を広げましょう! 今後とも皆様のご支援・ご協力を賜りますよう、切にお願い申し上げます。(兼松)

ハイブリッド講演会(3/13開催)

3月13日の講演会は、関心も非常に高く、ZOOM申込は43名、(当日参加数は34名)でした。たくさんの方にご視聴いただき、本当にありがとうございました。日本に限らずどこにいても、インターネット環境さえ整えば参加できるという利点は、大いに活用していきたいですね。(兼松)

編集後記

- ☆ 親しい友人たちが戦場で逃げまどっている、という現実を受け止めるのに時間がかかった。寝る前に、「明日の朝刊に『停戦実現!』と載りますように…」と心に思う日々です。(佳)
- ☆ コロナ禍や露ウ戦争、そして繰り返す地震…心を痛め、うつ向きがちな日々。友と笑顔で会える毎日を忘れてしまいそう。心軽く目覚める晴れやかな朝…早く来て欲しい!(美)
- ☆ 今回の「ロシアによるウクライナ侵攻」は、人道的立場から絶対に許されるべきではない。

私たちは何があろうとも、ウクライナの友人たちを絶対に見捨てることはできない。30年以上にわたり支援を続けてきた私たちには、①日ウの相互信頼関係が出来上がっており、現地カウンターパートとの太いパイプがある、②現地の被災者や医療機関が今最も必要としている、救援物資の明細を知ることができる、③現地のジトーミル非常事態局や海外のNPOとの連携により、確実に救援物資を届ける手段を持っている…という、市民レベルの支援において不可欠なこの3つのノウハウを備えている。

皆様のご支援を、医薬品や生活必需品に変えて、確実にウクライナの市民に届けたい。(J)

〒456-0022 名古屋市熱田区波寄町 20-14
E印刷「**エアフロント**」
TEL・FAX (052) 871-9473